

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

株咲かじいさん

～米国に語り継がれるかもしれないパウエルじいさんのお話～
(P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ 107.00 ～ 109.00

りそなWEEKLY COLUMN

米国で感じた新型コロナの状況と米大統領選 (P3)

りそな銀行 総合資金部
亀田 周平

- 1月下旬は米国でも新型コロナウイルスに対する見方は楽観的
- 3月にNYで初の感染者が出ると企業や個人の行動が一気に変容
- 11月の米大統領選は新型コロナウイルスと米国経済がカギを握る

2020/4/13

りそな外為レポート

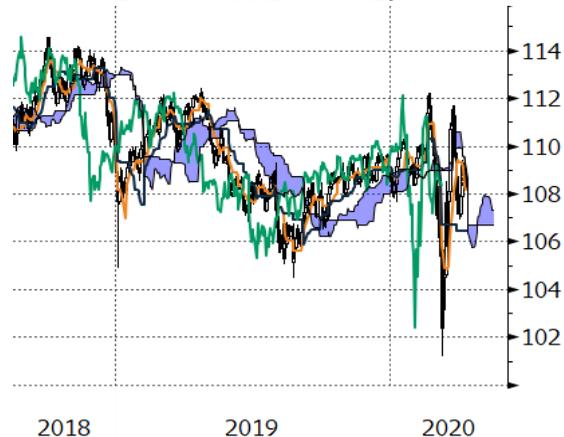
株咲かじいさん

～米国に語り継がれるかもしれないパウエルじいさんのお話～

今週のドル円予想レンジ **107.00 ～ 109.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

むかしむかしあるところに、米国の金融政策を担うFRB議長・パウエルじいさんがおりました。任期2年が経つ頃、世界は新型コロナウイルスに脅かされ、各国のトップは今後起こりうるかもしれない世界恐慌に頭を抱えておりました。それは世界最大の経済大国である米国も例外ではありません。日に日に感染者は増加し、毎週発表される新規失業保険申請件数は660万件を上回る、桁違いの雇用悪化が続きました。

パウエルじいさんはこの米国の悲鳴に耳を傾け、「政策を総動員する！」と高く拳を上げたのです。“中小企業も零細企業も私が守る！”と言わんばかりに、追加で最大2兆3000億ドルの支援を発表。「民間銀行の中小企業への融資はFRBが95%買い取ります！」「ダブルBの社債も買い取ります！」そんな、パウエルじいさんの強い思いが、リスク資産の支えとなり、米株にも見事な花を咲かす事に成功しました。しかし、実はパウエルじいさんは大きな賭けに出たのです。施策に失敗すれば、FRBの資産毀損と大きなドル安の波がやってくる大きな賭けに……。つづく (カスタマーディーラー 田中春菜)

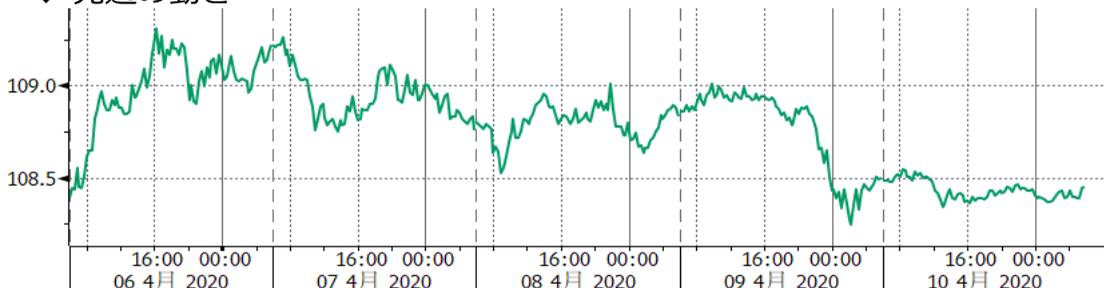
◆今週の日程

14日(火) IMF世界経済見通し	15日(水) G20財務相・中央銀行総裁会議
15日(水) 日 3月訪日外国人客数	16日(木) 米 3月住宅着工・許可件数
15日(水) 米 3月小売売上高	16日(木) 米 4月フィラデルフィア連銀製造業指数
15日(水) 米 3月鉱工業生産	17日(金) 中 12/1Q GDP
15日(水) 米 米地区連銀経済報告	17日(金) 中 3月生産・小売・投資

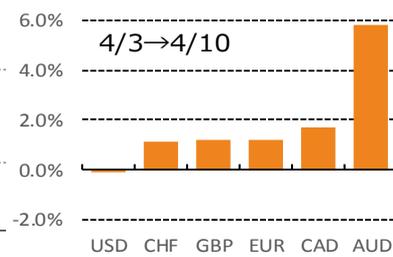
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 4月10日(金) 108.47円 VS 17日(金)

東京							大阪			埼玉						
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	休	↑	↓	↓	↓	休	↓	↑	↓	休	↓	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



出所：Bloomberg

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/4/13

りそな WEEKLY COLUMN

米国で感じた新型コロナの状況と米大統領選

- 1月下旬は米国でも新型コロナウイルスに対する見方は楽観的
- 3月にNYで初の感染者が出ると企業や個人の行動が一気に変容
- 11月の米大統領選は新型コロナウイルスと米国経済がカギを握る

りそな銀行 総合資金部
亀田 周平

私は今年の1月から3月下旬まで米国ニューヨークで日系証券会社の現地法人にて海外研修に参加した。新型コロナウイルスが米国で拡大する前後の現地の状況について筆者の体験したことを報告したい。

楽観的であった2月までの状況

昨年末から年初にかけて米中貿易対立が改善されるなどを通して、新年は世界経済の見通しは明るく始まった。トランプ大統領も今年の大統領選の再選に向けて幸先のよいスタートを切った。株価は高値圏で推移し、NYのディーラーたちも上機嫌な日が多かった。街を歩いていても活気に溢れ、景気の良さを感じた。

1月下旬ごろ、中国で新型コロナウイルスの流行と都市封鎖が報道されはじめるが、アメリカは地理的に遠いこともあって、この時点では日本の方が警戒感が高かった。社内でアジア系の人がかくしゃみや咳をしたときも、アメリカ人たちは『corona virus!!』と冗談で叫ぶ声も飛び交っていた。トランプ大統領もこのころはコロナウイルスに関して、インフルエンザのようなものと繰り返していた。このような状況が2月下旬ごろまでは続いたと記憶している。

3月～非常事態宣言とNYのロックダウンの実情

しかし3/1にNY市で初の感染者がでると一気に状況が変わったのを感じた。研修先の人員は半分以上が自宅や別拠点からのオペレーションになった。これまで街中でマスクを着用している人を見かけるのは一日に一人程度だったが市民のマスク着用率は日に日に高まっていき、使い捨てのゴム手袋を使用している人も出てきた。

緊急事態宣言が発令されると、スーパーやドラッグストアには日用品を買い求める人が殺到。NY市のロックダウン（都市封鎖）の予告から実施までの間にスーパー・ドラッグストア以外で行列が見られたのが、タバコ屋やNews Standである。ロックダウンによりEssential Business以外の営業が制限されるため嗜好品を買いだめしようとする人が多かった。News Standに人が並んでいたのは、恐らく大半がロト(宝くじ)の購入者であったとみられる。

2020/4/13

りそな WEEKLY COLUMN

そして、ロックダウンが実施されると、Essential Business以外の店舗は一気にクローズし、経済が急速に冷え込むのを感じた。生活に必須ではない業態の店がクローズしたため、タイムズスクエア等のミッドタウンからは人がほとんどいなくなった。初期対応こそ遅れたものの、わずか1ヵ月ほどの間に、企業・個人の行動が、急速に変容したことが、いまだに信じられない。危機を認識してからのスピード感は凄まじいものがあった。

逆に住宅街の人の密度は高くなった。大きなスーパーがある通りには人がさかんに往来し、ほかの国と同じように入店待ちの行列が目立った、セントラルパークではランニングや犬の散歩を行う市民が多く見られた。これでは、ロックダウンをしても簡単には感染拡大を抑えることはできないだろうと感じた。

米国大統領選に向けて

トランプ大統領は就任以来大きく上昇し高値を更新する株価を自身の政策の成果としてアピールし再選を狙っていた。しかし、コロナウイルスの拡大により株価が就任直後の水準まで下落したことで、トランプ大統領の再選の戦略は狂ってしまった。さらにコロナウイルスへの初動に対する批判から現状民主党の大統領選候補であるバイデン氏への評価が高まっている。同氏は自身が副大統領のときに導入した医療保険制度（オバマケア）を強化することで国民の大半が同制度に加入できるようにすることを政策として主張している。一方、トランプ大統領は同制度の形骸化を図っている。

アメリカでは無保険の人が何千万人もいるため、病気になることは死活問題である。11月の選挙直前にコロナウイルスと米国の経済がどうなっているかが大統領選の結果を決めるだろう。



ロックダウン2日後のタイムズスクエア。人が少ないタイムズスクエアを見ようとそれなりに人がいた。



スーパーのホールフーズに間隔をあけて並ぶ人たち。



以前はむき出しで売られていたパンが個包装になった。